



# とらいあんぐる



2023年11月・12月

一音会ミュージックスクール発行

## 「退屈は大切」

私などよりも忙しい人は、世の中にたくさんいらっしゃるでしょう。でも私は私なりに忙しくしております。

のんびりしたいなあ、心の底から願う時、「子ども時代に戻りたいなあ」と、自分の子ども時代を、なつかしく思い返したりしています。

でも、日々、生徒さんと接していると今の時代の子供たちは、私の子ども時代とはちょっと違うように見えます。なんだか忙しそうです。

時代の違いを感じてしまいます。

私は、ものすごくヒマな子どもでした。

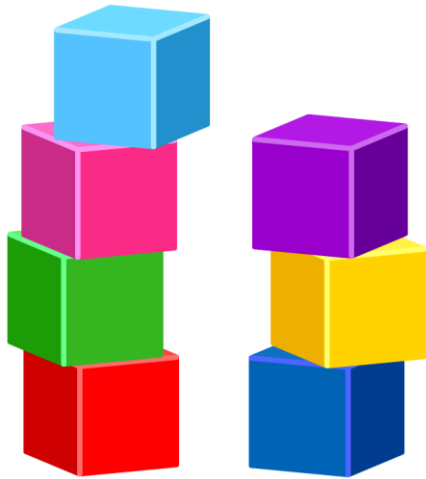
もう、毎日、ヒマでヒマでヒマで、やる事がなくてたいへんで、時間をつぶすためにいろいろな工夫をしていました。



その頃のことを思い返すと、あれはあれで楽しかったなあと思うのです。

楽しかっただけでなく、私の人格を形成するのに、ものすごく重要な時間だったようにも思えます。

よくある年寄りの「昔は良かったな」という話になってしまったら、ごめんなさい。少しだけ、私の昔話におつきあってください。



昔、子どもはヒマであったように思います。よその子のことは、よく知らないのですが、少なくとも今の子どもよりヒマそうでした。

ヒマなので、無駄としか思えないことに、たくさん時間を使っていました。

た。

私は、当時の子どもの中でも、トップクラスにヒマな子どもだったと思います。

きょうだいはいません。

お友だちもいません。

ほとんどの時間を一人で過ごしていました。

家でピアノを弾いていましたが、外に出かける習い事はなにもしていません。

幼稚園もサボり続けていました。

うちにも外にも、用事はありません。ずっと家にいます。

時間だけは、いくらでもあります。

祖母は仕事と家事で忙しくしていました。父は仕事で家にほとんどいませんでした。

祖父は闘病中でした。母も闘病中でした。

私の相手をする人はいません。

私は、何にもしばられず、一人で、

だらだら暮らしていました。

子ども時代、私が没頭していたことは、そう多くありません。ずっと同じことをしているので、行動のバリエーションがものすごく少ないのです。

一番、たくさん時間を使ったのは、やはり本を読むことでした。

ありえないほど、ゆっくり読んでいました。急ぐ必要がないからです。

しかも、気に入った本は、百回以上、読んでいます。丸暗記してしまった本がたくさんありました。

いろいろ読んで、読みたいものが尽きると、時間をつぶすために、違う読み方をしてみます。

とにかく、時間がありすぎるのです。

うしろから読んだりもしてみました。うしろから読むとは、たとえば「かまぼこを買いました」という文章を、「たしまいかをこぼまか」と読むわけです。

「たしまいか！」

「こぼまか！」

それだけおかしくておかしくて、一人、ゲラゲラ笑っています。ちょっとおバカさんな子どもだったのかもしれませんが。

うしろから読むと意味不明の文字のつながりなので、うまく読めなくて、でもきいたことのない発音がなんだか外国語のようで楽しいのです。

両親の本も手にとりました。

幼児ですから、読めない字だらけです。

辞書をひく知恵なんか、あるはずもありません。



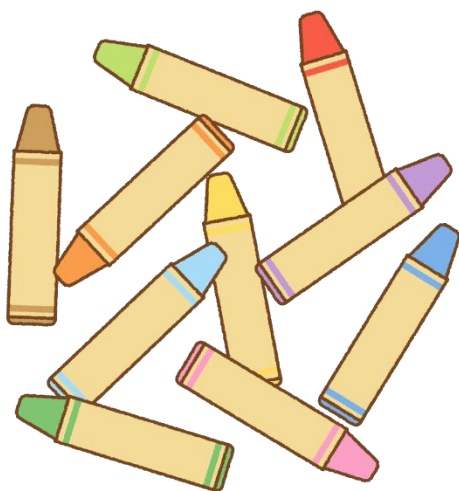
時間がたくさんあるので、読めない字の意味を想像して遊びました。前後の文からきとうに、想像してしまうのです。

読めない漢字を、書きうつして、それに線を書きたして、絵にする遊びも、大好きでした。

意味も読みも分からないままです。

見かねた母が、漢字の意味や成り立ちを教えてくれることもありました。

母の魂胆は、今ならよく分かります。「漢字に興味があるのなら、遊びついでに漢字をおぼえさせられるのでは・・・」と思ったのでしょう。



ところが、私はそんな賢い子どもではありませんので、そういうことには全然、興味がわからないのです。

漢字に対する興味は、主に図形的な興味でした。

子どもはおとなの思うようには動きません。

それから、絵を描くことも、うまい具合に時間のかかる作業で、ヒマつぶしにはうってつけでした。

絵を描くことは、空想の時間です。

紙、えんぴつ、クレヨン、これだけあれば、何時間でも時間を過ごせます。

それさえもいらないことがあります。

子ども時代の私がよくやっていたのは、天井に絵を描くことです。

本当に描くわけではありません。想像で思い描くのです。

部屋の真ん中にねっころがると、目の前には白く四角い天井が広がります。

す。私が知る中で、一番大きい、白いスペースです。

ちょっと電気がジャマですが、見えないことにします。想像なので、どうとでもなります。

ねっころがって、ずっと天井を見ていると、昔の人が天井に絵を描いた気持ちができます。こんなに広い平面は、なかなかありません。

構図を真剣に考え、色もタッチも、頭の中で練り上げていきます。

繰り返しますが、実際には描いていません。それがポイントです。

実際にはぬっていないので、気が変わったら、色も変えてしまいます。

自分の技術を超える絵も描けてしまいます。ここは透明にしよう等、技術的に不可能なこともできてしまいます。

すべて想像ですから！

はためには、ねっころがっているだけの子どもに見えますが、頭の中はフ

ル回転です。

はっきり絵が浮き上がるほど、強くイメージしています。

集中が途切れると、イメージがうすれてしまうので、注意が必要です。天井からちょっと目をそらすと、もうダメです。形が崩れます。

長い時間、誰にも話しかけられないことのない子どもだったからこそできた作業なのかもしれません。

時間つぶしでやっていた遊びは他にもありますが、共通するのは、好きに想像して遊ぶ、ということでした。



情報を得るわけではありませんか  
ら、なにも学んでいません。

本を読んでいます、漢字を学ぶわけでもないですし、絵を描いていますが、実際には作品を生み出していません。

時間の使い方としては、無駄に見えることでしょう。

幼い頃、無駄に費やした膨大な時間を、もっと賢くなりそうな作業にあてていたら、私はもっと頭の良い人になっていたのかもしれませんが。

少し大きくなって、私はその可能性に気がついてしまい、母をとがめるつもりで、きいてみたことがあります。

「あんなにヒマだった私に、算数のドリルとか、英語の教材とか、与えようと思わなかったの？」

不満げな私に、母は笑いながら、そしてきっぱりと宣言しました。

「アヤコは、今以上にはならないし、今以下にもならない！」

それが母の答えでした。

はい。ごもっともです。

納得するしかありません。

私がああの時代、なにか賢くなりそうな活動をしていたとしても、今とあんまり変わらない人に仕上がっていたような気もするのです。



今は、情報が多く、子どもであってもたくさんの情報に触れることができる時代です。スマホにちょっと指をつければ、その先は広い世界です。

今、子どもたちがアクセスできる世界は広く、あまりにも広すぎるようにも思えます。広すぎる世界と豊かすぎる情報です。

狭い部屋の四角い天井を見上げていた、刺激に乏しい私の子ども時代とは、隔世の感があります。

今、スマホの先に広がる世界は、見ても見ても、見つくすことがありません。情報がいくらかでも出てきます。

全部、見ることはできません。

それは人間が処理できる容量をこえています。一生かかっても、知りつくせない膨大な情報が、手をのばした先にあるのは、私にはとてもこわいことに思えます。まるで足元に底のない海が広がっているような気持ちです。

私は何がそんなにこわいのでしょうか。

私の恐怖は、こうです。

子どもが、膨大な情報を効率的に手にすることだけに終始してしまうのではないか、ということです。子どものうちからネットの世界に触れていると、分からないこと、知らないことは、情報の海から拾い、それで埋めよ

うとするでしょう。だって、やろうと思えばできるのですから。

そこに想像力が入るスキがないことが、私はおそろしいのです。

情報が足りないと、自分で考えて、情報をつなぐ努力をします。理屈を考えたり、想像したりします。

そうやって頭を使う中で、考え方、感じ方のクセが生まれます。

それが“個性”の正体です。

それに、この世に想像する工夫と楽しみがなくなったら！

想像する楽しさだけで、子ども時代を過ごしてきた私には、情報が洪水のように押し寄せ、すきまなく満たされてしまうことが、とてもおそろしいのです。



1つ、提案です。

1回、遮断してみませんか？

とにかく今の時代は、情報が多すぎ  
ると思うのです。

年末年始、だらだらしましょう。

どこか1日、おでかけせずに、家で  
のんびりしましょう。

その日、モバイルは、できれば机の  
引き出しに放り込んでおきましょう。

テレビはコンセントを抜いてしま  
いましょう。

「退屈だな・・・」と感じたら、ね  
らい通りです。

SNSやYouTubeやゲームにたよらず  
に退屈な時間をどう過ごすか、考えま  
しょう。退屈とつきあう経験は必要で  
す。



白状しますと、最近、私が特にそう  
思うようになったきっかけがありま  
す。

粘り強く1つのことを続けられない  
子どもが増えていることを、いよいよ  
認めないわけにはいかなくなりました。  
た。

残念ながら、これは事実です。

絶対音感のおけいこで、脱落率が急  
上昇しています。

脱落とは、おけいこを適切な回数続  
ければ絶対音感を身につけられるにも  
かかわらず、おけいこ回数をこなすこ  
とができず、絶対音感を身につけるこ  
と自体を断念すること、です。

同じことを繰り返しかえしおこなうこと  
ができない。

決められた回数こなせない。

毎日、継続することができない。

そんな子が増えていると感じていま  
す。

彼らは、刺激的な情報に慣れていま



す。だからおもしろくないことを、やり続けられないのでしょう。

次から次へ魅力的な情報が与えられる環境に慣れていますが、だから飽きてしまうと、続けられなくなるのです。

ピアノもそうです。

粘り強く練習を重ねることができない子が増えてしまっています。

もしかしたら、おとなも退屈とつきあう力がなくなっているのかもしれない。

少し時間があると、すぐスマホを手にとっていないですか？

近年、電車の中でぼうっとしている人がいないなあと思います。皆、スマホをいじっています。

スマホのない時代、電車の中は、寝ている人や本を読んでいる人やぼんやりしている人や手帳に何かを書き込んでいる人、いろいろな人がいました。

時間のつぶし方はさまざまで、個性

的でした。

今は、皆、一心不乱に情報に触れています。

退屈は大切です。

退屈が悪いことのように思うのは、錯覚だと私は思います。

年末年始というのは、特別な時間です。これまでのことやこれからのことを考えるのに良い時期です。

この間に、退屈な時間を過ごしてみるのはいかがでしょうか？

退屈であることが苦しくなったら、呪文のように、こうとなえてください。

「たいくつはたいせつ」

(江口 彩子)



## ◆客員教授の先生のスケジュール

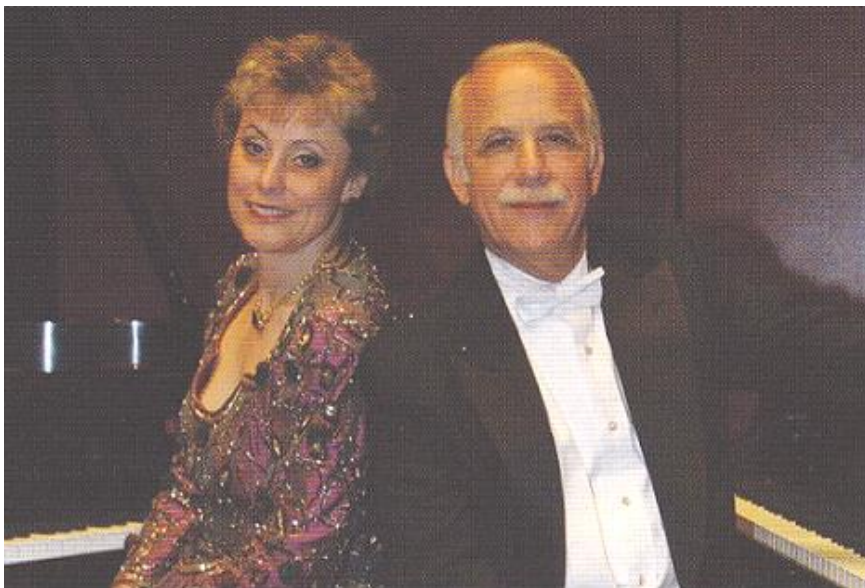
例年、一音会では、3月に客員教授のプリドノフ先生ご夫妻をお招きしてきました。ですが、コロナ禍の渡航制限のせいで、「例年」と言いにくい状況になってしまっていたことは事実です。

今年度、ようやく平常運転です。少し間があいてしまいましたので、改めてご説明させていただきます。一音会では、海外の音楽大学で指導をおこなうピアニストの先生方数人に、「客員教授」になっていただいています。客員教授の先生方のプロフィールは、教室のホームページに載せています。

この制度には、日本にいながら、海外の一流ピアニストに指導を受けることができるという大きな利点があります。

今回、来日するのは、ユージン・プリドノフ先生とエリザベス・プリドノフ先生です。お二人はご夫婦です。言語は英語です。

一音会出身の演奏家の皆さんは全員、プリドノフ先生ご夫妻の指導を受けてきました。反田恭平さんも藤田真央さんも、です。



## 【レッスン】2024年3月15日（金）・16日（土）・17日（日）

一音会の生徒さんは、レッスンを受けることができます。通訳が必要な場合は、こちらで手配いたします。通訳不要の場合はレッスン料だけで良いことになります。

五線読譜が完了している生徒さんなら、どなたでも受けられます。決して大きな生徒さんだけのイベントではありません。年齢が小さくても志の高い生徒さん、大きな曲を手がける大きな生徒さんには、ぜひこのチャンスを生かしていただきたいと思っています。

30分レッスン……レッスン料（12500円）＋通訳（2500円）→ 15,000円

45分レッスン……レッスン料（18750円）＋通訳（3750円）→ 22,500円

60分レッスン……レッスン料（25000円）＋通訳（5000円）→ 30,000円

## 【コンサート】2024年3月20日（祝）

2台ピアノのコンサートです。場所は「ひびきホール」です。

開演時間や曲目等は、追ってお知らせいたします。

## 【オーディション】2024年3月24日（日）

小学校3年生以上の生徒さんによる、オーディションです。プリドノフ先生ご夫妻の来日がかなわなかった間も、動画で審査をおこなってくださっていました。ようやく対面式の審査がかないます。

エントリーをお考えの生徒さんは、次の項の「エントリー要綱」をごらんの上、担当先生と相談しながら準備を進めてください。

## ◆「ジュニコン・オーディション」要綱

「第18回ジュニア・コンサート・オーディション」を開催します。生徒さんの、音楽性、実力、将来性、すべてを総合的に評価する審査となります。

- ① 「ジュニコン・オーディション」は、「ひびきホール」でおこないます。
- ② 曲目は自由ですが、演奏時間は6分～12分程度とします。組曲や変奏曲の抜粋、ソナタの楽章の抜粋、短い曲を何曲か組み合わせることはかまいません。6分～12分は目安です。多少オーバーしてもかまいません。
- ③ エントリー資格者は、2024年4月時点で、小学4年生～高校3年生の、一音会に在籍する生徒さんです。
- ④ エントリーするための費用は15000円です。これは全額、審査員の先生ご夫妻や通訳者へのお礼にあてられます。もし、選ばれて「ジュニア・コンサート」に出演することになったら、コンサート出演費用5000円が必要になります。
- ⑤ 「ジュニア・コンサート」は、4月26日（金）夕方（19:00開演予定）、「ゆめりあホール」（西武池袋線・大泉学園駅前）でおこないます。



## ◆在会生徒さん向けのキャンペーンについて

この数年、感染症予防の観点から、教室外の方向けのキャンペーンを中止してまいりました。規制が緩和されてきた昨今ですが、安全第一としまして、今年度まで、外部向けキャンペーンを中止する予定です。

(1) 在会の生徒さん向けのキャンペーンと、(2) 在会生徒さんのごきょうだい・ご家族の方向けのキャンペーンは、以下のようにおこないたいと思っています。

それぞれ2種類、ございます。ぜひご利用ください。

### (1) 在会生徒さんのキャンペーン

#### ①アドバンスAのピアノレッスン30分体験

アドバンスAの先生のレッスンは、通常期間、体験していただく場合、体験料のご負担が重いですが、キャンペーン期間(2024年1月14日～2月18日)にお申し込みいただいた場合にかぎり、下記の体験料でお受けいただけます。

**30分 2700円 (全ての曜日共通)**

「〇〇先生のレッスンを」と、担当先生を指名していただくことができます。

すべての方が対象です。アドバンスAのレッスンをすでに受けていらっしゃる生徒さんも、他の先生のレッスンをおためしいただけます。

「どの先生で受けたら良いか分からない」という場合は、本部にご相談ください。

#### ②個人レッスン30分無料体験(ピアノのみ、もしくはピアノ+絶対音感)

##### 絶対音感のレッスン10分無料体験

お一人、1回とさせていただきます。

ピアノの無料体験は、現在、ピアノを受講していない生徒さんが対象です。同様に絶対音感の無料体験も、現在、絶対音感を受講していない生徒さんが対象です。

3歳以上で、まだ絶対音感もピアノも受講していない生徒さんは、絶対音感とピアノの両方を1コマ（30分）で受けられる体験レッスンをおすすめします。

現在、リトミックを受講していらして、絶対音感やピアノのレッスンをおはじめることを検討していらっしゃる生徒さんに、ぜひ活用していただきたいと思います。

ただし、個人レッスンは時間帯によっては、すぐにご案内ができないことがございます。その点だけ、ご了承ください。

①は、2024年1月14日～2月18日、②は、2024年1月14日～4月14日を、キャンペーン期間とさせていただきます。

## (2) 生徒さんのごきょうだい・ご家族の方向けのキャンペーン

### ①リトミックレッスン無料体験

原則として、お一人、1回とさせていただきます。

リトミックは、8か月以上のお子さまが対象です。年齢とご希望曜日をおうかがいして、一番合うクラスをご提案いたします。

### ②入会金1万円

通常、15000円（税別）のご入会金を、この期間のご入会にかぎり、10000円（税別）とさせていただきます。同一ご家族の中で、三人目の方がご入会になる場合は、ご入会金は無料です。

①②とも、2024年1月14日～4月14日を、キャンペーン期間とさせていただきます。

お分かりにならないことは、ご遠慮なくおたずねください。ご相談に乗りながら、おすすめの体験レッスンをご案内いたします。

## ◆ 1年間、ありがとうございました

今年は夏が長かったせいか、もう1年が終わろうとしていることに驚かされます。

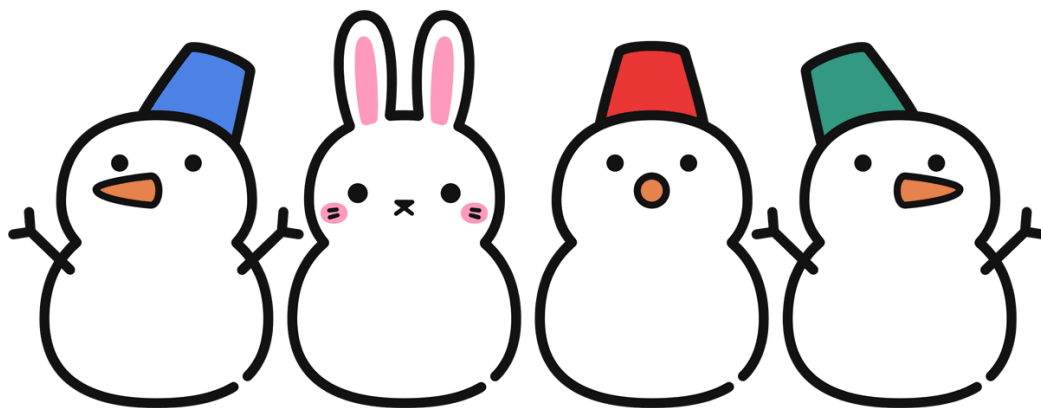
今年は、とうとうコロナが5類に移行し、コロナ禍が過去のものとなりました。幸せな日常が戻りつつある、明るい1年であったと思います。

新しい年は、さらに明るい、希望に満ちた1年になることでしょう。皆さまの新しい1年が幸せな1年となりますよう、心よりお祈りしております。

今年も1年間、多大なご協力を、ありがとうございました。

冬休み中、一音会本部は12月23日（土）より1月7日（日）まで、お休みをいただきます。勝手ながら、その間は、電話でのご相談もお休みさせていただきますこと、どうかご了承ください。

楽しい年末年始をお過ごしください。



\*\*\*\*\*

\*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：[ichionkai.piano@gmail.com](mailto:ichionkai.piano@gmail.com)

電話：03-3954-9999

\*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

\*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。

# 2023年のあゆみ



1月6日	2023年 レッスン開始日	
1月	ピアノ・トライ（動画式）実施	
1月21日～2月19日	ピアノ・トライ（対面式）実施	於 バッハはうす
2月5日	第24回「フォルテの会」 有観客	於 ひびきホール (You Tube 限定配信もあり)
2月12日	第70回「ル・コンセール」 有観客	於 ひびきホール
2月26日	第71回「ル・コンセール」 有観客	於 ひびきホール
2月	「動画式 ル・コンセール」	(You Tube 限定配信)
3月21日	第17回「ジュニア・コンサート・オーディション」 有観客	於 ひびきホール
4月 5日	2023年度 レッスンスタート	
4月26日	「江口メソード」セミナー（絶対音感）	於 伊藤楽器(船橋)
4月28日	第17回「ジュニア・コンサート」 有観客	於 ゆめりあホール
5月24日	「江口メソード」セミナー（相対音感）	於 伊藤楽器(船橋)
6月 4日	なみのおとコンサート	於 ひびきホール
6月28日	「江口メソード」セミナー（読譜）	於 伊藤楽器(船橋)
7月8日～27日	リハーサル・トライ 実施	於 ヘンデルはうす
7月30日	2023ピアノ発表会（第1日目）	於 板橋文化会館小ホール
8月4日～7日	2023ピアノ発表会（第2～5日目）	於 清瀬けやきホール
11月3日	第24回「音楽の集い」 有観客	於 ひびきホール (You Tube 限定配信もあり)
12月22日	2023年レッスン最終日	